事業場において治療と仕事の両立を支援するための配慮とその決定プロセスに 関する研究(200201-01) 令和3年度研究結果の概要

研究代表者 江口 尚 (産業医科大学産業生態科学研究所産業精神保健学研究室・教授) 分担研究者 堤 明純 (北里大学医学部・教授)

佐々木治一郎 (北里大学・教授)

須賀万智(東京慈恵会医科大学・教授)

渡辺 哲(神奈川産業保健総合支援センター・所長)

山野嘉久(聖マリアンナ医科大学医学部・教授)

斉藤 聡 (横浜市立大学医学部・教授)

古屋博行(東海大学医学部·教授)

森田哲也(株式会社リコー・プロフェッショナルサービス部人事総務センター 総務サポート室・グループ統括産業医)

梶木繁之 (株式会社産業保健コンサルティング アルク・代表取締役)

北居 明 (甲南大学経営学部・教授)

森永雄太(武蔵大学経済学部·教授)

井上彰臣 (産業医科大学 I R推進センター・准教授)

武藤 剛(北里大学医学部・講師)

研究結果の概要

本研究では、ガイドラインが示す両立支援をより一層普及させていくために、これまで 両立支援に関する研究を推進してきた産業保健、臨床医学、経営学の研究者を分担研究 者、当事者、法律家、社会保険労務士、人事労務担当者を研究協力者とした研究班を組織 し、両立支援を行う際に、労使間の合意形成がなされるプロセスについて、両立支援の環 境整備の組織レベルと両立支援の実施の個人レベルに分けて事例収集し、収集した事例か ら、指標となる組織レベル、個人レベルの標準的な合意形成のプロセスとその評価指標、 マニュアル、事例集の提案を目的とした。3 年計画の2年目の本年度は、産業経験のある 医師 10 名からのなるチームを組織して、がん患者を対象にした企業内にける合意形成プ ロセスに資する支援システムをウェブ上に構築した(URL: https://www.chiryousapo.com/ ユーザー名:chiryou パスワード:2021)。難病患者の就労に関する研究の レビューを行い、モデルに資する情報を抽出した。その結果を、産業医学レビュー誌(令 和3年5月号)にて報告した。また、経営学に関する先行研究から、治療と仕事の両立支 援に役立つ概念として、ウェルビーイング経営、リーダーシップ、ジョブ・クラフティン グ、ワーク・エンゲイジメント、解決志向マネジメント、アプレシエイティブ・インクイ リーについてのレビューをまとめ、産業保健と看護誌に報告した。産業医科大学病院、東 海大学医学部付属病院、横浜市立大学附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、北里大学病 院の医療相談窓口や両立支援外来からの事例の収集を行った。横浜市立大学付属病院にお いてはリーフレットの作成、聖マリアンナ医科大学においては両立支援外来を分院でも開 設した。また、神奈川産業保健総合支援センター主催で神奈川県内の4大学病院及び2労 災病院(横浜労災病院、関東労災病院)が事例の共有をする場として神奈川モデルの連絡 会を開催し、事例の共有を行った(2021年10月)。産業保健総合支援センターにおいて は、神奈川県の全てのがん診療連携拠点病院/指定病院(31)との間での協定締結が完了 し、各病院からの相談対応実施件数が増大した(約90件)。事業者等に対する個別訪問支 援を行った(10件)。このような活動を通じて事例収集を行った。初年度に抽出・整理し た、両立支援に係る労使間の合意形成プロセスに必要な情報に、研究代表者及び研究分担 者の分担研究から得られた内容を追加し、情報の拡充を図るとともに、教示文の追加とチェックリスト形式へのレイアウト編集を行い、評価指標案を作成した。今年度の研究成果 をもって、最終年度の目標である組織レベル、個人レベルの標準的な合意形成プロセス案 の作成とその改善に加え、チェックリスト、マニュアル、評価指標の作成、ステークホル ダー会議の開催のための準備が整った。





図 開発中のシステムのイメージ